

サイトの漢字に

無料でルビ振り

障害者支援団体がスタート

学習障害で漢字の読めない人や外国人向けに、電子メールやサイト上の漢字に自動的にルビを振るサービスを、情報技術（IT）を活用した障害者支援に取り組む団体「アダプティブテクノロジー」が無料で始めた。

同団体代表で、システム録をすれば、後は「アダプティブテクノロジー」の運用するサーバーを経由して

「その人の障害の種類や程度、属性や好み、TPO（時、場所、状況）に合わせて情報を提供できるようにしたい」と夢を語る。利用者は一度ユーザー登録すれば、後は「アダプティブテクノロジー」の運用するサーバーを経由してホームページを閲覧したり、メールを受け取ったりするだけ。使われているすべての漢字にルビが振って表示されるが、同じ機能の市販パソコン用ソフトと違って無料で、携帯電話から

〇〇〇〇

鳥原さん自身、網膜色素変性症という病気の視覚障害者。画面のデータを音声で読み上げるパソコンソフトを日常的に活用し、慶応大大学院で研究活動に取り

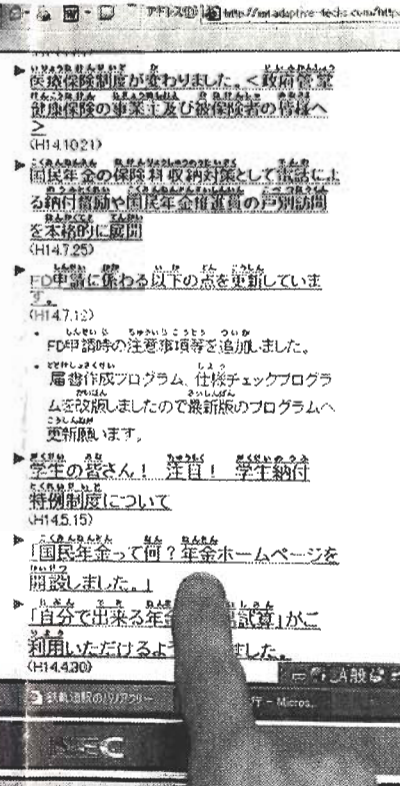
〇〇〇〇

組んでいる。ITの恩恵を受ける一人だが、現在の障害者支援技術には不自由さを感じるという。

将来は外国語の表示目指す

「携帯」の利用もOK

例えば、音声読み上げソフトでパソコン画面の意味をつかもうとすると、文章を最初から最後まで聞いていなければならぬ。じれったいが、現状では障害者が、支援技術の仕様に合わせる形で利用せざるを得ない。鳥原さんは「パソコンの側が障害者の個別の状況を察知し、文字や



漢字にルビを振って表示されたホームページ画面

「アダプティブテクノロジー」で事務局を担当する、バリアフリー型ホームページ制作会社「アイ・クリエイツ」（東京都町田市）の羽川和男代表は、「こうした支援技術が実現すれば誰にとっても便利になると思う」と意義を語る。鳥原さんも「日本人や障害者だけでなく、全世界の人が使えるようにしていきたい」と意気込んでいる。

「アダプティブテクノロジー」のホームページは、<http://www.adaptive-techs.com/>